

Team 城中「授業の心得」

「ともに学ぶ」

～他者との関わりを通して、未来を切り開く生徒の育成を目指して～

1 全員参加の授業を目指す

- ☐ 全員参加する手立てがある。

2 授業の「めあて」の明確化と課題設定の工夫

- ☐ 単元を意識した授業を推進し、単元目標を明確にするとともに、その達成に向けて日々のめあてを設定する。

3 見通しをもった学習活動

- ☐ 学級の実態に合わせた適切な目標設定・指導過程がある。
- ☐ めあて・目標が板書されている。
- ☐ 発問により、生徒の問題意識が生み出されている。
- ☐ 課題をどのように出させるか工夫している。
- ☐ 黒板を見れば、本時の授業の学びが見える。
- ☐ 振り返る場面を設定し、自分自身の学びを振り返っている。

4 ICT 機器の効果的な活用

- ☐ 教育効果を高めるために、アナログ、デジタル（学習用端末）、ICT 機器のベストミックスを模索している。

5 授業中に変化がある。

- ☐ 気づき（発見・驚き）のある授業を心がけている。
- ☐ 中心発問は、ねらいにせまったり、生徒の思考を揺さぶったりしている。
- ☐ 他者との関わりを通して、自らの考えを再構築する場面がある。

6 さらなるレベルアップを目指す。

- ☐ 教科の横断的な単元計画、ゲストティーチャー、地域社会とのつながり等を生かした授業に挑戦する。
- ☐ 同僚や他校教員の授業や授業研究会、講演会等に、積極的に参観する。
- ☐ 自らの授業を公開し、自らの授業力を磨く。
- ☐ 教師の発問、手立て、生徒の学びの姿について、教員同士で語る。